

「ことができたと感じますか」との問いに対して、日本参加青年の回答は、3(ある程度高められた)以上が97%、4(高められた)以上が63%であった。外国参加青年の回答は、3(ある程度高められた)以上が94%、4(高められた)以上が76%であった。

④ 参加者への将来の影響

「本プログラムでの経験は、あなたの将来に役立つと思いますか」との問いに対して、日本参加青年の回答は、3(ある程度そう思う)以上が100%、4(そう思う)以上が97%であった。外国参加青年の回答は、3(ある程度そう思う)以上が100%、4(そう思う)以上が82%であった。

2. 日本参加青年の成長

① 目標の達成

日本参加青年は事前研修時に、本事業のオンライン交流を通して達成したい目標を設定した。事後研修時、その達成度を6段階(6=十分達成できた、5=おおむね達成できた、4=ある程度達成できた、3=あまり達成できなかった、2=ほとんど達成できなかった、1=全く達成できなかった)で自己評価した結果は、4(ある程度達成できた)以上が

100%、5(おおむね達成できた)以上が67%であった。

② 能力の向上

事前研修時から事後研修時までにおいて、能力の成長、もしくは変化について、6段階(6=十分備えている、5=備えている、4=ある程度備えている、3=あまり備えていない、2=備えていない、1=全く備えていない)で自己評価した結果は次のとおりである。

・「自らの専門分野に関する知識」:

4.1から4.5となり、0.4ポイントの増。

・「課題分析力」:

4.0から4.4となり、0.4ポイントの増。

・「問題解決能力」:

3.9から4.3となり、0.4ポイントの増。

・「企画力」:

3.9から4.5となり、0.6ポイントの増。

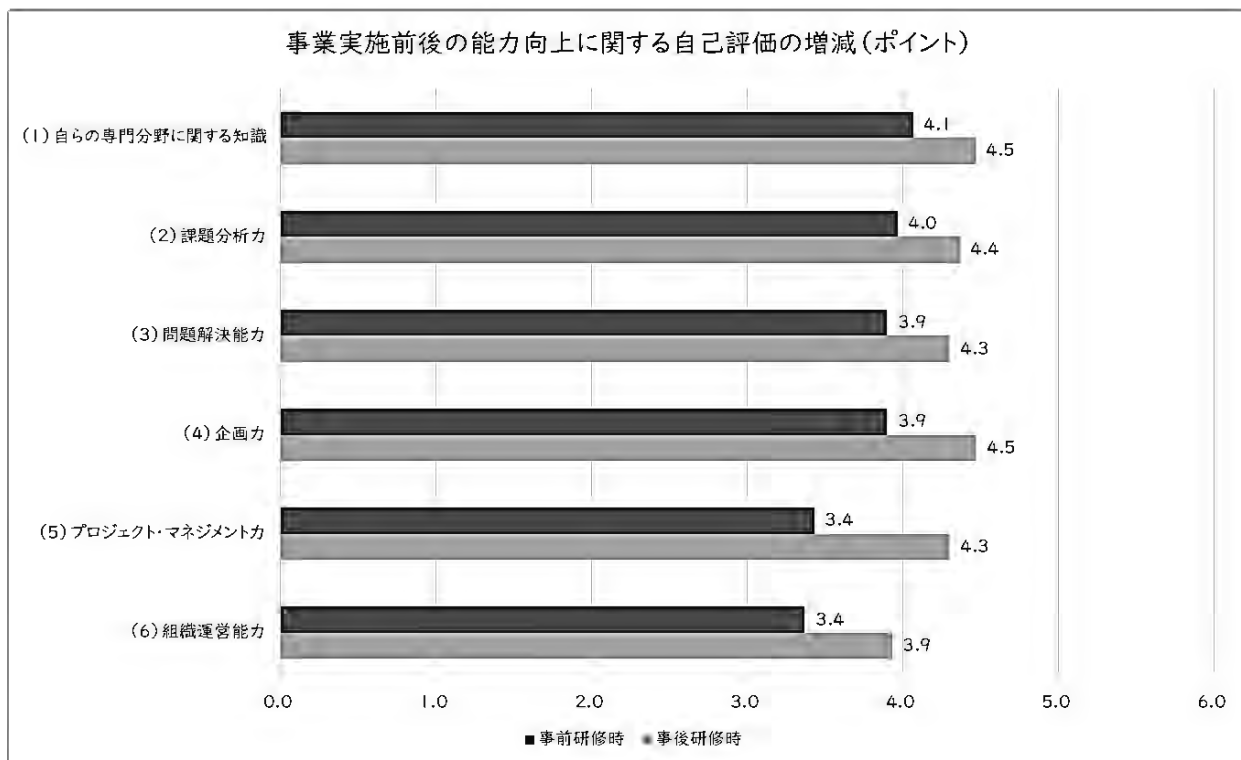
・「プロジェクト・マネジメント力」:

3.4から4.3となり、0.9ポイントの増。

・「組織運営能力」:

3.4から3.9となり、0.5ポイントの増。

(※ポイント数については、小数点以下第二位を四捨五入)



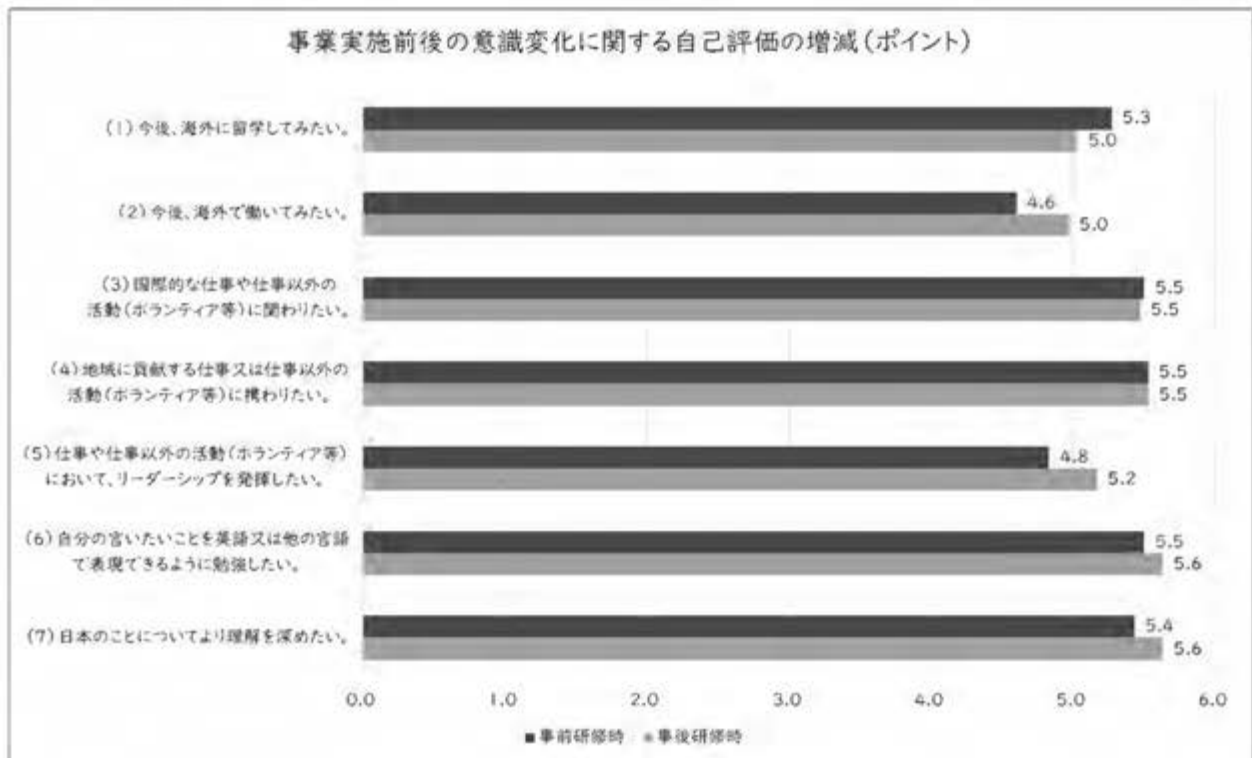
③ 意識の変化

事前研修時から事後研修時までにおいて、意識の変化について、6段階（6=非常にそう思う、5=そう思う、4=ややそう思う、3=あまりそう思わない、2=そう思わない、1=全くそう思わない）で自己評価した結果は次のとおりである。

- ・「今後、海外に留学してみたい。」：
5.3から5.0となり、0.3ポイントの減。
- ・「今後、海外で働いてみたい。」：
4.6から5.0となり、0.4ポイントの増。
- ・「国際的な仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）に関わりたい。」：
5.5から5.5となり、ポイントの増減なし。
- ・「地域に貢献する仕事又は仕事以外の活動

（ボランティア等）に関わりたい。」：

- 5.5から5.5となり、ポイントの増減なし。
 - ・「仕事や仕事以外の活動（ボランティア等）において、リーダーシップを発揮したい。」：
4.8から5.2となり、0.4ポイントの増。
 - ・「自分の言いたいことを英語又は他の言語で表現できるように勉強したい。」：
5.5から5.6となり、0.1ポイントの増。
 - ・「日本のことについてより理解を深めたい。」：
5.4から5.6となり、0.2ポイントの増。
- （※ポイント数については、小数点以下第二位を四捨五入）



III. 総括評価

最後に、アンケートから日本青年のコメントを抜粋し、今回の総括評価をまとめる。

本事業において試験的取組となったオンラインでの実施について、以下のコメントが寄せられている。「コロナ禍でもオンラインで開催していただきありがたい。私は産後6か月で、オンラインだからこそ参加できた。オンラインでも、日本参加青年間では、十分なネットワークを築けた。」「本来であれば海外に行く事業だが、オンラインで参加しや

すく、働きながら、仕事を長期的に休まずに、大きな学びを得ることができた。オンラインでの開催も良かったと。」「私も含めオンラインだからこそ参加できたという人もいると思う。青少年分野では居住地も様々で、多様性に富んでいた。今後対面開催が可能になっても、オンラインでの実施も継続して欲しいと感じた。」

一方で、対面交流を渴望する声も以下の通り寄せられている。「来年度の募集で派遣プログラム

げたと結論付けることができよう。

が復活した際には、是非応募したい。」「オンラインでもある程度議論ができることが分かった反面、時間的制限や外国参加青年とのより深い信頼関係を築く点ではやはり face to face の事業であるべきと感じた。」「オンラインでのプログラムを経験して、実際に交流国に行きたくなった。」「外国参加青年と交流することで、実際に現場に行き、更に交流してみたいと思った。コロナが落ち着いて、海外にも行けるようになったら、訪れたい。」

このことから、自宅や職場からインターネット環境を利用し、時間的・物理的制約を最小限に抑えて参加できるという利点を享受する一方で、直接対面しての交流、また、現地へ赴き実物を見聞する学びへの意欲がうかがえる。

プログラムで得たことや価値にかかるコメントとして、人的ネットワークに関する声も多い。「同じ仕事をしている外国参加青年との交流ができ、他国の状況を学ぶことができた。また、国内の方々とのつながりを得たことは一番の収穫。同じ分野でも、多様な職種や考え方があり、交流を通じてとても刺激を受けた。今後の自分が目指すべき方向性も定まってきたような気がする。この職種が自分にとって、やりたい仕事ということも再認識する機会にもなった。」「オランダ参加青年とのディスカッションはもちろん、公式日程以外に日本参加青年とディスカッションする機会を多く持ち、今まで関わることのなかった職種の方々との意見交換ができ、良い刺激となり、大変有意義であった。」「色々な方と交流することで新しい発見があり、障害者支援について改めて見直すことができた。また今後の障害者との関わり方でいかしていけることが沢山あった。」「たくさんの学びをいただいたことに感謝ばかりで、今後の取り組みにいかしていきたいと思っている。外国参加青年だけでなく、日本参加青年との出会いもよい刺激となった。」「参加者同士のつながりや、分野を超えた活動は今後発展させることができそうだという手応えがある。」

上記の評価より、従来通りの対面での現地活動による交流で得られる成果とは異なる様相を呈するものだが、青年たちの能力向上と成長、特に日本参加青年同士のネットワーク構築という観点において、今年度のプログラムは十分な成果を挙